

ジギャン クマル タパ (ネパール出身)
公益財団法人かながわ国際交流財団

1. 略歴

- (ア) 小学生の時に青年海外協力隊員に出会い、日本に関心を持つ
- (イ) 高校卒業後ネパールで日本語を学び、2000年に留学生として来日
- (ウ) アルバイトをしながら日本語と専門課程で学び、国費留学生になる
- (エ) 大学院で行政学を学びながら社会貢献活動などに参加
- (オ) 神奈川県地方創生推進会議の委員など

2. 日本語学習歴

- (ア) ネパールの日本語学校 (350 時間程度)
- (イ) 日本の大学で日本語の授業を週 3 時間程度
- (ウ) 地域ボランティアに日本語で教えてもらう
- (エ) 日本語能力試験一級合格
- (オ) 継続的に日本語のブラッシュアップに心掛けている

3. 在留外国人統計 (ネパール)

1	留学	28,268
2	家族滞在	27,792
3	技能	12,639
4	技術・人文知識・国際業務	11,148
5	永住者	4,672
6	特定活動	3,803
7	経営・管理	1,538
8	日本人の配偶者等	886
9	定住者	842
10	その他	1216
	合計	92,804

2019年6月末現在 (法務省)

4. 在住ネパール人の現状

- (ア) 留学生や技能ビザなどの方の家族滞在ビザで来日する方が多い
- (イ) 日本語ができず本国でのキャリアが日本で活かされない方が多い
- (ウ) アルバイトなどのステップアップを目指すのに日本語が不可欠
- (エ) 日本で出産・育児をする方が増えているが、言葉の壁が大きい
- (オ) 年金や保険など日本の様々な制度への理解も不十分

5. ネパール人コミュニティの取り組み

- (ア) 日本語スピーチコンテストを開催
- (イ) 履歴書の書き方
- (ウ) 東北や熊本へ災害支援
- (エ) 防災マニュアルの作成（ネパール語）
- (オ) 日本語教室の開催

6. 実際にあった相談（事例）

- (ア) 妊娠中に受診した病院で患者と医者の間で言葉ができず困っている。
（病院より）
- (イ) 中学校にネパール人が転入するが日本語ができない。入学式に併せて学校の伝えたいことなどネパール語に通訳して欲しい。（学校より）
- (ウ) ネパール人の保険料未払いについて催促しても通じず、何かいい方法はないか？（役所より）
- (エ) 技能ビザのコックさんが配偶者の来日に伴い日本語学習させたい、無料の日本語教室がないか探している。（支援者より）

7. まとめ

- (ア) 公的機関による日本語の基礎教育により日本語をしっかりと身につけることが、その後日本で生活していく上でとても大切
 - 多くのネパール人は出稼ぎのために様々なビザで日本に来ているが、その定着率が高く、長期に渡って日本に住む傾向がある。
 - 本人も日本語が必要だと思っているが、民間の語学学校等の受講料を払えるほど生活の余裕がない人が多い。
 - 出産・育児をはじめ、子どもの学校教育が始まれば様々な制度への理解が必要で、日本語ができて行政サービスへのアクセスができ、制度への理解が深まれば、自尊心をもって生活ができ、仕事へのステップアップや日本社会との接点も増え、共生社会の実現にもつながる。
 - 一方地域でボランティアによる日本語教室は地域との接点や交流という意味では有効と考えられるが、基礎をしっかりと学び、その後日本語を使って生活や仕事をしていく上では公的でバラツキのない政策的なサポートが必要。
- (イ) 日本語さえしっかり取得できれば、本国でのキャリアを活かし、即戦力として活躍できる人材もいるので、初期段階の日本語教育の機会が大切。
- (ウ) 仕組みの中で来日してすぐに日本語の勉強をする必要に迫られないとアルバイトなどを優先しがちなので、初期段階での日本語教育が大切。

以上